

ライセンス失効の原因と防止策

ライセンス失効の原因と防止策を当ドキュメントで説明します。

当資料は、GeneXus インストールガイドを既にお読み頂いていることを前提に作成しています。ライセンスが停止した場合のライセンス再発行方法などはインストールガイドをご確認ください。

過去に弊社ホームページにて資料「Protect.dll アップグレードのお願い」を公開しておりましたが、当資料は、「Protect.dll アップグレードのお願い」をバージョンアップさせた資料となります。Protect.dll の更新方法に関しましては、当資料の「[1.1 Protect.dll のバージョンが古い](#)」をご確認ください。

ライセンス失効の原因は次の 4 つです。順番に防止策を説明します。

1. ライセンスが突然停止
2. ライセンスが停止する操作を行う
3. 移行ファイルが取り込めない
4. 期限切れ

目次

ライセンス失効の原因と防止策	1
1. ライセンスが突然停止.....	2
1.1 Protect.dll のバージョンが古い.....	2
Protect.dll の場所	2
バージョンの確認	3
更新方法	4
1.2 アンチウイルスソフトがライセンスに関わるファイルを削除.....	5
2. ライセンスが停止する操作を行う	5
2.1 回避策（ライセンスの移行）	5
2.2 回避策が行えない場合	6
3. 移行ファイルが取り込めない	7
3.1 移行ファイルが取り込めないケース概説.....	7
3.2 単体移行ファイルの場合	8
3.3 複数移行ファイルの場合	9
4. 期限切れ.....	10

1. ライセンスが突然停止

ライセンスが突然停止する原因は主に次の 3 つです。①と②の予防策を説明します。

- ① Protect.dll のバージョンが古い
- ② アンチウイルスソフトがライセンスに関わるファイルを削除
- ③ 予期せぬ端末のシャットダウン

1.1 Protect.dll のバージョンが古い

Protect.dll はライセンスの読み取りに関わるファイルです。このファイルのバージョンが古いことでライセンスが停止する場合がございます。また、Protect.dll はバージョンが新しいほどライセンストラブルに関するバグフィックスが多く含まれていますので、常に最新バージョンをご使用ください。

Protect.dll の場所

GeneXus とプロテクションサーバーは 1 つの Protect.dll を共有しています。Protect.dll の場所は次の通りです。

- 64bit : C:\¥Program Files (x86)\¥Common Files¥Artech¥GXProt1
- 32bit : C:\¥Program Files¥Common Files¥Artech¥GXProt1

GXserver は 1 インスタンスごとに 1 つの Protect.dll が存在します。Protect.dll の場所は次の通りです。

- GXserver インストールフォルダ/¥VDir¥Bin

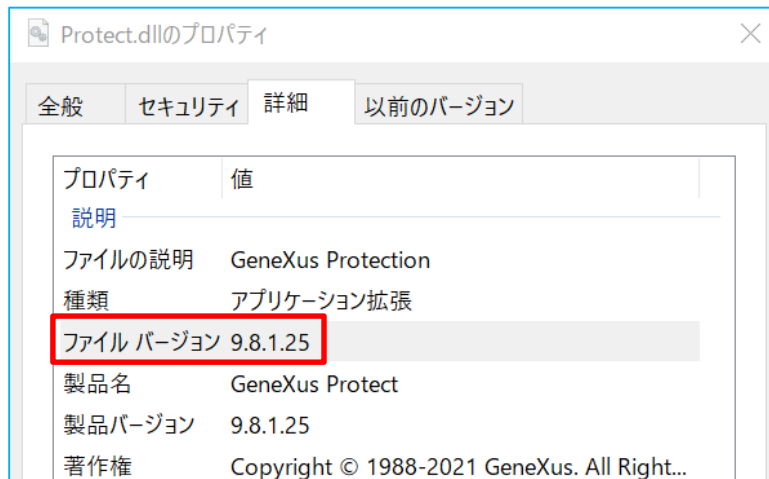
例えば、1 つの端末に次の製品がインストールされているとします。

- A) GeneXus16U11
- B) GeneXus17U6
- C) プロテクションサーバー
- D) GXserver17U4
- E) GXserver17U6

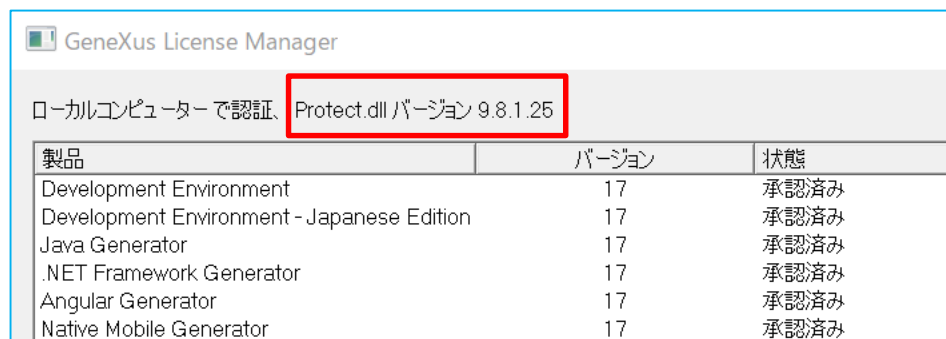
この場合、A、B、C で 1 つ、D で 1 つ、E で 1 つと合計 3 つの Protect.dll の更新が必要となります。

バージョンの確認

Protect.dll を右クリックして「プロパティ」を選択することで下図のようにバージョンの確認ができます。



GeneXus およびプロテクションサーバーの場合は、ライセンスマネージャーの画面左上で確認することも可能です。



更新方法

最新バージョンの GeneXus、プロテクションサーバー、GXserver には最新バージョンの Protect.dll が含まれています。例えば、最新の GeneXus またはプロテクションサーバーをインストールした場合、次の場所の Protect.dll は最新に更新されます。

- 64bit : C:\Program Files (x86)\Common Files\Artech\GXProt1
- 32bit : C:\Program Files\Common Files\Artech\GXProt1

最新の GXserver を新規インスタンスとしてインストールした場合、そのインスタンスの Protect.dll は最新です。また、最新の GXserver で既存の旧バージョンのインスタンスを更新した場合、そのインスタンスの Protect.dll は最新に更新されます。

上記のように最新製品のインストールを行わない場合は **Protect.dll** を差し替えることで更新を行ってください。GeneXus Japan の製品ダウンロードページ (<https://www.genexus.jp/community-and-support-jp/downloads02>) の「GXflow / GXtest / GXquery / その他」カテゴリから最新版の「Protect.dll」がダウンロード頂けます。

Protect.dll を差し替える際に、「ファイルが使用中」といったメッセージが表示され差し替えられない場合があります。その場合は次を行ってください。

- GeneXus またはプロテクションサーバーの Protect.dll を更新する場合

ライセンスの使用中は Protect.dll の更新はできませんので、GeneXus を閉じてください。数分経過しても Protect.dll の更新が行えない場合は、タスクマネージャーの「サービス」タブにある「ProtSrvService」を右クリックして「再起動」を行ってください。プロテクションサーバーがインストールされていない場合は、「ProtSrvService」の方法が行えませんが端末を再起動してください。

タスク マネージャー			
ファイル(F) オプション(O) 表示(V)			
プロセス パフォーマンス アプリの履歴 スタートアップ ユーザー 詳細 サービス			
名前	PID	説明	状態
ProtSrvService	4228	ProtSrvService	実行中
PushToInstall		Windows PushToInstall サービス	停止

- GXserver の Protect.dll を更新する場合

IIS マネージャーにて当該 GXserver のアプリケーションプールを再起動してください。

1.2 アンチウイルスソフトがライセンスに関わるファイルを削除

アンチウイルスソフトがライセンスに関わるファイルを削除することでライセンスが停止したり、ライセンスマネージャーが開けなくなることがあります。予防策として下記フォルダをアンチウイルスソフトの例外に設定してください。

- GeneXus の場合 :
64bit : C:¥Program Files (x86)¥Common Files¥Artech¥GXProt1
32bit : C:¥Program Files¥Common Files¥Artech¥GXProt1
- GXserver の場合 :
C:¥GXserver インストールフォルダ¥VDir¥Bin

2. ライセンスが停止する操作を行う

次の操作を行うとライセンスが停止します。

① 端末の日時を変更する

- 端末の日時（日付や時刻）を「過去」に変更した場合、ライセンスが停止します。

※タイムゾーンの変更でも停止します。

端末の時間を「未来」に変更した場合は停止しません。ただし、ライセンスの有効日数が短くなります。

また、「未来」に変更した後に端末の日時を元の日時に戻しても、日時が「過去」に変更されたと判断されライセンスが停止します。

② OS のアップグレード（例：Windows10→Windows11）

③ システムの復元

④ 大幅なハードウェア構成の変更

⑤ レジストリ情報の修正

2.1 回避策（ライセンスの移行）

ライセンスが停止する操作を行う必要がある場合、他の端末にライセンスを移行してからライセンスが停止する操作を行ってください。

手順例：端末 A にライセンス有り、端末 B にはライセンス無しとします。

手順 1. 端末 A から端末 B にライセンスを移行する。

手順 2. 端末 A でライセンスが停止する操作を行う。

手順 3. 端末 B から端末 A にライセンスの移行を行う。

2.2 回避策が行えない場合

回避策を行えない理由は主に次の 2 つです。

1. ライセンス移行に使用できる端末が無い
2. ライセンスが停止する操作を行う端末が GXserver の端末（GXserver ライセンスは移行できないため）

回避策を行えない場合、ライセンスが停止する操作を行う前にライセンスをアンインストールしてください。アンインストール後、**アンインストールファイルまたは GxProt.log をエビデンスとして取得します**。エビデンスがあることによって後ほどライセンスの再発行が可能です。ライセンスをアンインストールせずにライセンスが停止する操作を行うと、エビデンスが取得できない恐れがあります。

手順例：端末 A にライセンスが有るとします。

手順 1. 端末 A でライセンスをアンインストールする。

手順 2. アンインストールしたエビデンス（**アンインストールファイルまたは GxProt.log**）を取得する。

手順 3. エビデンスを弊社に送付する。

※ 注意：弊社パートナーより製品をご購入いただいたお客様は、パートナーを経由してエビデンスを送付。

パートナーのご担当者様および弊社直販のお客様は弊社にエビデンスを送付してください。

手順 4. エビデンスからライセンスのアンインストールを弊社で確認後、端末 A でライセンスが停止する操作を行う。

手順 5. ライセンス復旧のため、ライセンスを再請求する。

※正規ライセンスではなく、即日発行できる緊急ライセンスのご使用も可能です。

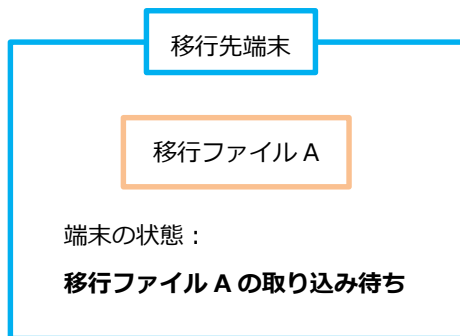
手順 6. 再発行されたライセンスを端末 A で取り込む。

3. 移行ファイルが取り込めない

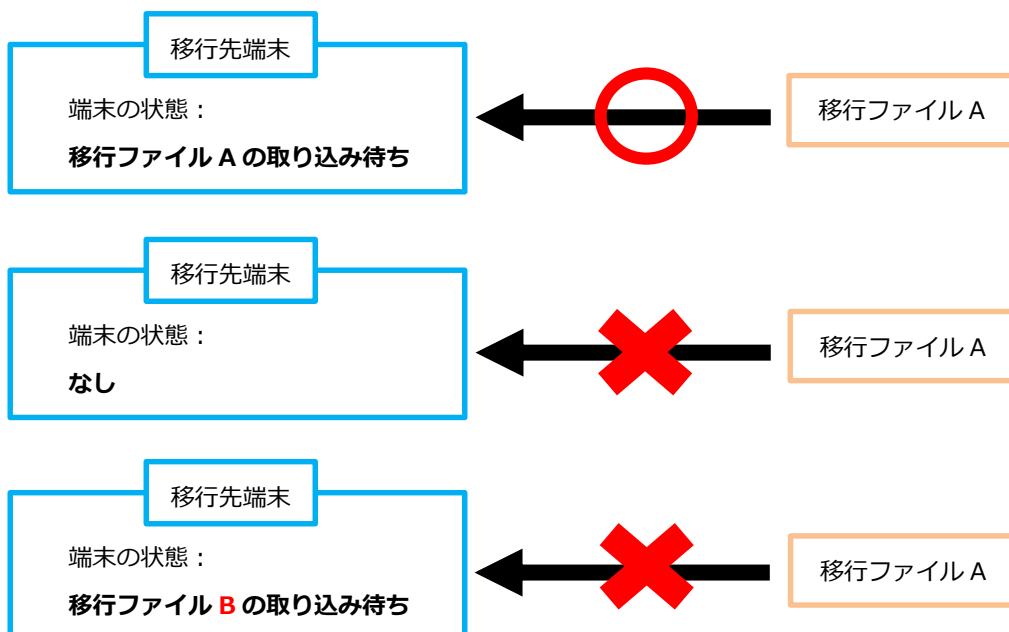
移行ファイルにライセンスを書き出した後、そのファイルが移行先端末にて取り込めないとライセンスが失効したことになり再発行が必要です。移行ファイルが取り込めないケースを説明します。「移行ファイルが取り込めないケース」はユーザーの操作によって発生しますので、これらのケースが発生しないようにしてください。

3.1 移行ファイルが取り込めないケース概説

移行ファイル A を作成した時に移行先端末は「**移行ファイル A の取り込み待ち状態**」になります。



移行先端末が「**移行ファイル A の取り込み待ち状態**」のままだと移行ファイル A が取り込めます。「**移行ファイル A の取り込み待ち状態**」が解除または変更されていると移行ファイル A を取り込めません。



3.2 単体移行ファイルの場合

例えば、Java Ver17 の移行ファイル A を作成したとします。移行ファイル A には内部的に「Id = aaaaa」といった情報が付与されます。この時、移行先端末（移行ファイル A を作成した端末）の Java Ver17 は「**移行ファイル A の取り込み待ち状態**」になります。

「移行ファイル A の取り込み待ち状態」が解除または変更されると移行ファイル A は取り込めません。
解除または変更されるケースは次の通りです。

① Java Ver17 の移行ファイルを再度作成する

新しく作成された「移行ファイル B (Id = bbbbb)」の取り込み待ち状態」に**変更**されます。
(ライセンス移行ファイルは最後に作成したファイルだけが使用できる理由です。)

補足：

「移行ファイル A の取り込み待ち状態」や「Id = aaaaa」といった情報は「**製品名 + Ver**」ごとに管理されています。例えば、Java Ver17 の移行ファイル A を作成 (Id = aaaaa) した後に、次の 2 つの移行ファイルを作成しても、「移行ファイル A の取り込み待ち状態」が解除または変更されることはありません。

- .Net Ver17 の移行ファイル C を作成 (Id = ccccc)
- Java Ver16 の移行ファイル D を作成 (Id = ddddd)

② 移行ファイル A を取り込む

ライセンス移行が完了したため、「移行ファイル A の取り込み待ち状態」が**解除**されます。

移行ファイル A を複製して複数の端末でライセンスの書き出しを行うと、最初の取り込みだけ成功します。例えば、移行ファイル A (コピー1) を取り込んだ後に、「移行ファイル A の取り込み待ち状態」が解除されるので、移行ファイル A (コピー2) は取り込めません。

③ 移行先端末で Java Ver17 の請求ファイルを作成する

ライセンス移行が中断され、「移行ファイル A の取り込み待ち状態」が**解除**されます。

④ 移行先端末で Java Ver17 ライセンスが取り込まれた、またはアンインストールされた

ライセンス移行が中断され、「移行ファイル A の取り込み待ち状態」が**解除**されます。

※次ページに続く

⑤ 複数移行ファイルを作成する

複数移行ファイルは全ての「製品名+Ver」の単体移行ファイルを作成したと判断され、作成済みの全ての単体移行ファイルの「取り込み待ち状態」は解除されます。

例えば、次の4つの移行ファイルを1～4の順で作成した場合、取り込めるのは4の複数移行ファイルXだけです。

1. Java Ver17 の単体移行ファイル A (Id = aaaaa)
2. .Net Ver17 の単体移行ファイル C (Id = ccccc)
3. Java Ver16 の単体移行ファイル D (Id = ddddd)
4. 複数移行ファイル X (Id = xxxxx)

3.3 複数移行ファイルの場合

例えば、複数移行ファイルXを作成したとします。移行ファイルXには内部的に「Id = xxxxx」といった情報が付与されます。この時、移行先端末（移行ファイルXを作成した端末）は「**移行ファイルXの取り込み待ち状態**」になります。

「移行ファイルXの取り込み待ち状態」が解除または変更されると移行ファイルXは取り込めません。
解除または変更されるケースは次の通りです。

① 複数移行ファイルを再度作成する

新しく作成された「移行ファイルY (Id = yyyyy)」の取り込み待ち状態」に**変更**されます。

② 複数移行ファイルXを取り込む

ライセンス移行が完了したため、「移行ファイルXの取り込み待ち状態」が**解除**されます。

③ 移行先端末で何かしらの製品の請求ファイルを作成する

ライセンス移行が中断され、「移行ファイルXの取り込み待ち状態」が**解除**されます。

④ 移行先端末で何かしらのライセンスが取り込まれた、またはアンインストールされた

ライセンス移行が中断され、「移行ファイルXの取り込み待ち状態」が**解除**されます。

⑤ 何かしらの単体移行ファイルを作成する

複数移行ファイルは全ての「製品名+Ver」の単体移行ファイルを作成したと判断されます。そのため、何かしらの単体移行ファイルの作成は「複数移行ファイルXの取り込み待ち状態」を**解除**した後に行われます。

4. 期限切れ

ライセンスの期限が切れるとライセンスが失効します。ライセンスが失効するとライセンスの復旧までに最短で 1 日かかりますのでライセンスの期限が切れる前に更新手続きをお願いします。

ライセンスの更新を行う際には、更新を行うライセンスのライセンス番号が必要です。このライセンス番号はライセンスマネージャーなどで確認することはできません。そのため、ライセンスの移行などによってライセンスの場所（端末）が変わる際には、お客様自身でライセンスの場所を管理するようにしてください。

本件について、ご不明な点などございましたら、ご購入先のパートナーご担当者様までお問い合わせをお願い致します。弊社直販のお客様は、以下の宛先へご連絡ください：

ジェネクス・ジャパン株式会社：customersupport@genexus.jp

2022 年 4 月 初版